

特集② サプライチェーン変革の推進 | コア技術を活用した高品質なものづくり | 持続可能な調達と安定した供給力 | 品質第一の生産体制と資源循環技術
あらゆる食シーンへの価値提案力 | 特集③「サラダのリーディングカンパニー」として、世界の食と健康に貢献する



特集② サプライチェーン変革の推進

インタビュー

「良い原料」と「確かな品質」を基盤に、
1,000人の「活人化」で新たな価値を。
従業員が最大限にパフォーマンスを
発揮できるサプライチェーンへ

キュービー株式会社
取締役 常務執行役員 グローバルSCM担当 渡邊 龍太

「良い商品は良い原料から」という原点を サプライヤーと分かち合い、 安定供給を揺るぎないものにする

キュービーグループのサプライチェーンには、創業時より受け継がれてきた「良い商品は良い原料から」という揺るぎない原点があります。この想いと、食の安全・安心を最優先する企業文化が、自社内だけでなくサプライヤーの皆様との間にも深く根付いていることこそが、私たちの強みです。私たちは皆様の、単なる取引先ではなく共に未来を創る大切なパートナーと位置づけ、長年築いてきた強固な信頼関係を基盤に共存共栄を図ってきました。

お取引先各社とは定期的な勉強会や提案会を実施しているほか、私たち自身が生産現場に直接出向き、品質のチェックを共に

行っています。また、専門部署が各サプライヤーの皆様と密にコミュニケーションを取りながら、サステナブルな原料調達に関わる情報を収集・管理し、改善が必要な点があれば共に解決策を考え、要望を提出しています。こうした対話の積み重ねは、長期的な信頼関係が確立されているからこそ可能な取り組みであり、不測の事態にも揺るがない安定供給の礎となっています。

多様化する課題に真摯に向き合い、 現場の「ゆとり」と「自律性」を 価値創造の原動力に変える

労働力不足や原材料費の高騰、エネルギーコストの高止まり、気候変動の影響といった外部環境の変化、さらに社内における取り扱いアイテムの多さに伴う生産・在庫調整の難しさな

ど、我々を取り巻く経営課題は多様化・複雑化しています。将来予測が難しくなる中、どのような環境変化にも柔軟に対応できる組織づくりが求められており、サプライチェーンの効率化および強靱化が極めて重要になっています。

その実現のために、私たちは現場の従業員ができる限りの「ゆとり」と「自律性」を持って仕事に取り組める環境づくりを最優先しています。その指針が最新技術を活用した「スマートファクトリー構想」であり、私たちは「Simple (単純化)」「Smooth (円滑化)」「Satisfaction (働きがい)」「Sustainable (持続可能性)」という4つの「S」の実現をめざしています。これは単なる省人化ではありません。企業経営の成果を最終的に決めるのは、あくまでも人間のパフォーマンスです。自動化やデータ活用によって工数が削減され、ゆとりが生まれた分、従業員がより創造的な業務に集中することで生き活きと仕事ができる。この「活人化」という概念を我々は重視しており、これが変化へ適応し続ける組織へと進化させる原動力になるのです。

自律的な改善文化とグループ一体の 技術革新が、未来を切り拓くための 「余力」を生み出す

こうした変革を根底で支えているのは、2003年から続く「夢多^ど(むだ)採り活動」です。現場の一人ひとりが「ありがたい姿(夢)」を描き、自律的に改善を提案するこの活動は、毎年6,000件以上の知恵となって積み上がっています。この現場力を礎に、私たちは2030年度までに1,000人分の業務余力を創出する「グループ1,000人活人化プロジェクト」を推進しています。2025年度は130人分、2026年度も140人分程度の削減を確実に見込んでお

特集② サプライチェーン変革の推進 | コア技術を活用した高品質なものづくり | 持続可能な調達と安定した供給力 | 品質第一の生産体制と資源循環技術
あらゆる食シーンへの価値提案力 | 特集③「サラダのリーディングカンパニー」として、世界の食と健康に貢献する

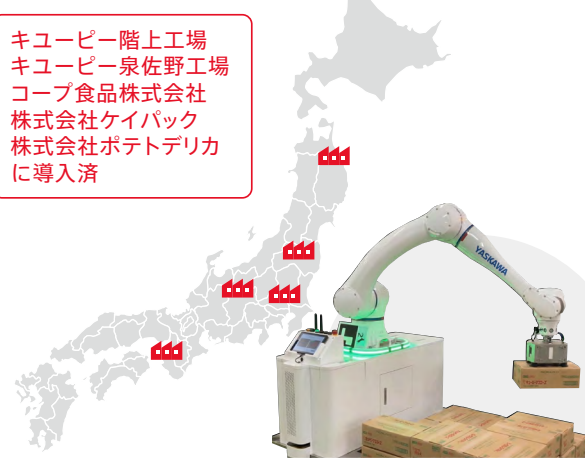


り、その加速のために「グループ体の共創」を強化しています。

具体的には、現中期経営計画から新しいチャレンジとして「グループ体の共同技術開発」に着手しました。従来はグループ各社が個別に行っていた技術開発や設備導入を一本化することで、技術レベルの向上とコスト圧縮を同時に進めています。株式会社安川電機の協力のもと、TECHMAGIC株式会社とAI搭載積付ロボットを共同開発し、誰でも簡単に扱える操作性を追求しました。自律制御で安全柵を不要にしたため、既存の狭小ラインにも導入可能です。現在は当社グループ内5拠点で稼働しており、今後は海外展開も検討していきます。

2025年度AI搭載積付ロボット展開例

キューピー階上工場
キューピー泉佐野工場
コープ食品株式会社
株式会社ケイバック
株式会社ポテトデリカ
に導入済



並行して、自社内では部門横断でのアイテム精査を断行しました。過去5年間で約2,100種類あった商品を約1,800種類まで絞り込み、生産や在庫調整の負荷を軽減。あわせて、物流視点で商品の形状やサイズを見直す「DFL（物流を考慮した商品設計）」を推進しています。

また、メーカー間の垣根を越えた共同配送やASN（事前出

荷情報）の活用により、物流待機時間を93.4%削減するという劇的な成果も生まれています。

こうした現場の改善文化と共創によって創出されたリソースは、海外事業の強化や新たな価値創造といった「グループの未来を拓く領域」へ大胆に投入します。これにより、当社グループ全体のステージアップを図っていきます。

「こころ・しくみ・技術」の融合で品質保証をさらなる高みへ磨き上げる

海外事業の拡大に伴い、どの拠点、どの国でつくっても変わらぬ「キューピー品質」をお届けすることが不可欠です。私たちは、一つたりとも不良品を出さないという強い意志を込めた「全量保証体制」の構築を進めています。

これまでは理念の実践という「こころ」と、ノウハウの標準化という「しくみ」を大事にしてきましたが、これに最新の「技術」を加えて、より高度でリアルタイムな品質保証をめざしていきます。すでに日付印字のオンラインモニタリングや原料検査工程にAI検査装置を導入するなどデジタル化を進めていますが、同時に工程中のデータ活用を高度化し、品質保証をより確実なものへと磨き上げていきます。この「キューピーらしさ」を大切にしながら進化し続ける体制こそが、市場における私たちの信頼の根拠となります。

幅広い世代が刺激し合う 「コミュニティのような職場」こそが、新たな感動 (Surprise) を生む源泉となる

スマートファクトリー構想の先に私たちが描いているのは、



2028年度までの労働生産性1.5倍という数字の達成だけではありません。設備や技術そのものは、中長期的な優位性にはなり得ないからです。先述の「4つのS」が実現し、技術によって生まれたゆとりを活かして一人ひとりが生き生きと良い仕事ができるようになってこそ、お客様が驚き、感動するようなサービスや商品を提供できるはずで、真の優位性は、このように人間が最大限にパフォーマンスを発揮することで生まれる、5つ目のS「Surprise（驚き）」にこそあります。

私が注目している現象の一つに、国内で進む「長寿化」があります。人手不足の時代、意欲ある高齢者は非常に貴重な戦力ですが、物理的な負荷が壁となることがあります。そこで最新技術が身体的負荷をフォローし、若手からベテランまで誰もが楽に、自律的に仕事ができる環境を整えることが不可欠なのです。

幅広い世代の人々が集まり、お互いに学び合い刺激し合いながら働く「コミュニティのような職場」をつくること。技術はあくまで手段であり、主役はどこまでも「人」です。世代や国境を超えたすべての仲間が自律的に輝き、新たな価値を創造し続ける組織を、サプライチェーンの変革を通じて実現していきます。